

# 失われた城“池田城”の謎を探る

## 建物の遺構や井戸などを発見 全容解明に府教委が発掘調査

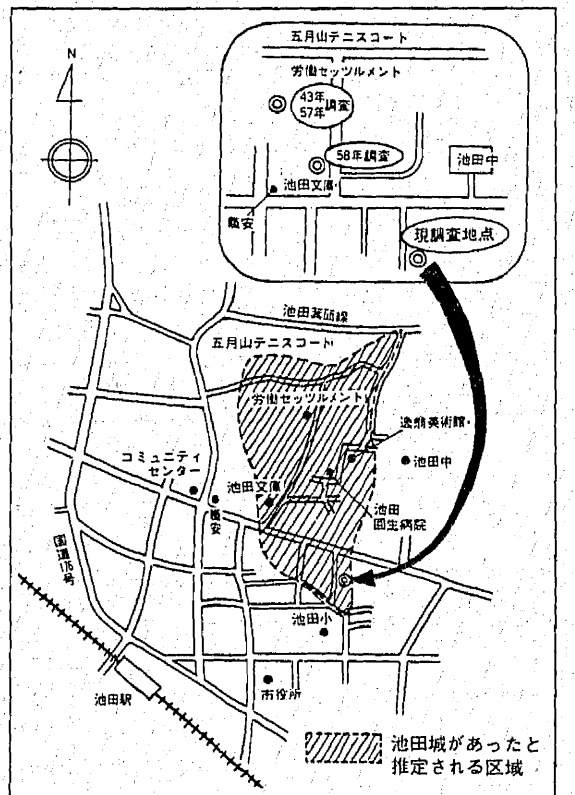
池田のまちの発展を知る貴重な手がかりとなる池田城跡の発掘調査が、府教委文化財保護課によって進められています。これまでの調査で、城跡の南東部の一角から建物の遺構や井戸などが多数発見され、広大な城郭の全容がより明らかになりました。

池田城は、十五世紀後半から十六世紀前半にかけて築かれた在地領主池田氏の居城（館）で、十六世紀後半、織田信長の攻撃で落城し、その後廃城になったといわれています。

今回の調査の詳細を報告します。



発見された井戸



### 本格的な中世の城か？

#### 池田城

市内の建石町から城山町一帯の小高い丘には、かつて城が築かれていたと推定されています。

城は現在なくなり、付近は閑静な住宅地で城があったとは分かりません。この「失われた城・池田城」の謎を解明するため、これまで何度も調査が行われてきましたが全容が明らかになっていません。昨年十一月から大阪府教育委員会文化財保護課は、城南東部の一画（約六〇平方メートル）の発掘調査を進めてきました。今回の調査によって、多数の堀立柱建物跡や土杭（土器などを廃棄した穴、石で円形に積まれた井戸など）の遺構を発見しました。これまでの調査で発見された本丸だけでなく、二の丸、三の丸まであった本格的な中世の城ではないかと推定されます。このほか、遺構の下層から奈良時代の溝（幅二一・五センチ、深さ六十センチ）が一本見つかりました。

### 城と町屋が一体でまちを形成

城跡の範囲は、不明確なところが多いのですが、推定では、北辺は山地から西流する杉ヶ谷川による深い谷、西辺、南辺は平野との境界にできた段丘崖、東辺は南北に走る谷（堀として利用したものと思われる）によって、城域を画していたものと思われる。

段状に自然地形を造成して居館、諸施設を構築していたものと推定されています。今回の発見されたものは、建物（土中に直接柱を据えた堀立柱式のもの、礎石を用いたものがある）、土杭、構、井戸などです。このうち建物の柱穴が最も多く発見され、数時期に渡って建築されたものと思われる。

城域は約一四ヘクタール、南北約五〇〇メートル、東西約三〇〇メートルで南北に長く、城の構造（縄張り）は、北西部一面によく残っています。城は、標高約二八・六〇メートルの傾斜地に立地し、

また、多量の土器をはじめとする遺物が出土した。特に中央部にあって不定形の落ち込みやその埋没後に堆積した焼土層から多くの土器類が発見されました。土師（はじ）質土器（紫焼きの軟質の土器）を中心に、備前・瀬戸産の陶器をはじめ、中国から輸入された青磁類、瓦、貨幣、多量の焼土塊（壁土の焼けしたもの）などが発見されています。これらはいずれも十五世紀にかけのもので、池田城に関する貴重な資料です。特に、多量の焼土塊は、戦乱による兵火によって焼け落ちた建物のあつたことを示すものとして注目されます。

池田城の復原とその解明は、まちの成立を知るうえで大きな手がかりを与えてくれるものと期待されています。池田のまちは、中世には館城と町屋とが一体となって都市を形成してきていたものか、南東隅に位置していることから城がなくなっても町南辺、東辺の守備を固め、屋は発展し、個性豊かな都市として今日に至っています。



池田城址

### 池田氏と池田城

池田城は、今から六五〇年ほど前、池田教依（のりより）が築城したといわれています。北は、杉ヶ谷川で五月山と分離し、東南は幅約十メートルの深い堀で外敵を防ぎ、西は高さ約二〇メートルの斜面で城下町を見降す絶好の場所に位置していました。

#### 信長の攻撃で落城

五代城主の充正（みつまさ）は、大広寺を創建する（一四〇〇年）など、池田氏は次第に勢力を伸ばしていきました。池田氏は、池田に館をもつ在地豪族として、池田地方では「屋形」と呼ばれて君臨していました。屋形池田氏は、同時に摂津国の守護大名細河氏城」などと書かれた史料の出身が明らかであり、その没後、室町時代の十四世紀後半ごろから史料にあらわれ始める在地土豪（國人）で、十五世紀以後には「池田館」「池田屋」など書かれた史料の主もあらわれています。

#### 発掘調査にご協力ください

今回の調査にご協力いただいた方々に感謝します。今後とも調査、保存に対し、市民の皆さんのご援助をお願いいたします。

大阪府教育委員会文化財保護課